

編集後記



昨年の3月、「土と岩 No.59」創立50周年記念特別号の最終校正に入った時に、「東北地方太平洋沖地震」が発生しました。

あれから一年、なかなか復旧・復興がままならないなか、学会や建設に関わる関連業界は各地で勉強会等を開催し、自分たちに何ができるのかを問い続けてきました。

この中部地方では台風12号、15号の爪痕も未だに残っており、その復旧・復興にいかに関わることができるのか。そして今後起こりうる自然災害を最小限に食い止めるために何ができるのか。

平成23年度は、その思いを強く全面に出して、大久保理事長の新体制がスタートし、特集は「地震の脅威」とし、特別寄稿は、本協会としても調査団に加わった台風12号災害に関するものに致しました。

頻繁に起こる各地の地震や風水害。元々足下の脆弱なこの日本列島においては、地盤災害は避けては通れない道ではありますが、ソフト面においてもハード面においても、知恵を出し合うことによって、防災、減災に携わることが私たちに求められていることであると痛感するとともに、昨年の出来事を後世に正しく伝えていくことも大きな役割であると思います。

今、あの大震災から2度目の春を迎えようとしており、やがて桜の季節になりますが、この「土と岩No.60」が皆様のお手元に届く頃には、新緑の季節となっているかも知れません。編集委員会といたしましては、皆様からいただいた大切な原稿を最後の最後まで、ミスのないように校正をし、お届けしたいと思います。

また、昨年リニューアルしたホームページについても、早く、広く伝えることのできる媒体として、この機関誌を補完するような役割にしていきたいと考えております。

最後になりますが、ご多忙にもかかわらずご寄稿いただきました執筆者の皆様、日頃より大変お世話になり、本年も意見交換会にて貴重なご意見を賜りました国土交通省中部地方整備局の関係者の皆様、上部団体である(一社)全国地質調査業協会連合会の成田会長を始め、本機関誌の発刊にご尽力をいただきました皆様に心より感謝申し上げます。

今後も「土と岩」が皆様方から愛読され続けますよう努力してまいりますので、ご指導、ご愛顧をお願い申し上げます。

編集委員会